



茨城経協

Ibaraki Employers' Association

<http://www.ikk.or.jp> Email info@ikk.or.jp

一般社団法人茨城県経営者協会



茨城経協

CONTENTS

- 01 第3回理事会
上期事業活動を報告、県政への提言・要望書の提出を承認
- 02 北関東3県経営者協会交流会
- 03 茨城大学への寄付講座がスタート
- 05 ISO9001認証取得レポート<(株)SAC東京東海事業所>
- 07 委員会報告
政策/地域関係/経営教育/労働企画/青年経営研究会
- 10 支部だより
県北/常陸那珂/水戸/県西/鹿行/共催セミナー
- 14 慶事のお知らせ
- 15 『会員増強運動2014』の状況 目標まで6社
- 17 新入会員紹介
- 18 県内NPO情報Vol.169<横田能洋>
「中間的就労の場を増やしましょう」
- 19 数に込められた思いと意味⑧<葛田一雄>
「『3, 4, 5, 6, 7』に学ぶ叡智」

上期事業活動を報告 県政への提言・要望書の提出を承認

当協会は、10月24日(金)、水戸市・三の丸ホテルにおいて、本年度第3回理事会を開催した。

鬼澤邦夫会長((株)常陽銀行代表取締役会長)はじめ理事、監事、参加が出席した。



冒頭、鬼澤邦夫会長が挨拶に立ち「日銀水戸事務所が10月11日に発表した金融情勢概況によると「県内景気は、引き続き消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられるが、基調的には回復しつつある。先行きは、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が徐々に薄れていき、基調的には緩やかに回復していく」としている。安定的な回復に向け、前向きに着実に企業経営を続けていかねばならないと感じている。

経協の事業については、本年度は、平成26年度から28年度までの3カ年の経協活動の指針である「第7次中期運営要綱」の初年度でありまして、「会員、地域から頼りにされる茨城経協へと進化する」という基本方向に則り、基本方針として掲げた「5つの重点事業活動」を積極的に展開している。また、役員の皆様のご協力により、会員増強運動は、年度当初の817社から現在861社となり、44社の実増。目標の870社まで9社となっている。改めまして御礼申し上げたい。

本日の理事会では、前期の事業活動報告に加え、茨城県政への要望などについて報告し、ご審議を願いたい。皆様の忌憚のないご意見をいただきたい」と挨拶。

次に鬼澤会長が議長となり以下の議案が報告・審議され、それぞれ承認された。

- ① 平成26年度上期事業活動(会長、専務理事の職務遂行状況報告)
- ② 平成26年度新会員の入会の承認を求める件
- ③ 茨城県政への提言・要望案について
- ④ 会員満足度調査について
- ⑤ 第44期茨城県労働委員会使用者委員の推薦(以下5名 敬称略)

内田 勉 (株)カスミ常勤監査役

館岡 司 (株)日立製作所電力システム社
日立事業所副事業所長

美濃部正 新日鐵住金(株)鹿島製鐵所
労働・購買部長

清水賢一 (一社)茨城県経営者協会顧問

安田仁四 (一社)茨城県経営者協会

人事労務相談室長

特別講演として、ジェットロ茨城貿易情報センター所長の西川壮太郎氏より「県内企業の海外展開動向～最近の状況と海外展開の好事例」と題し、なぜ今、海外展開が注目されるのか、中小企業の海外展開事例などについてお話いただいた。

終了後、本年度の新会員を招いての新入会員歓迎交流懇親会を開催、盛会裏に終了した。

本年度は、群馬県で開催 ～群馬大学がん治療最前線、 ガトーフェスタハラダ(高崎市)を視察～

10月20日(月)、茨城、群馬、栃木の北関東3県経営者協会の交流会が、群馬県高崎市にて開催された。

本交流会は、北関東地域の連携強化は行政のみならず経済界においても重要な課題になっていることから、域内経済界の交流を深め、パートナーとしての関係構築を実現するきっかけとしようとして当協会名誉会長の関正夫氏(関彰商事代表取締役会長)が提案し、平成18年6月に、栃木経協の役員と当協会正副会長など役員間の交流会を実施したのがはじまりである。2回目からは群馬経協にも参加を呼びかけ、一昨年は本県、昨年は栃木県にて実施し、今年度が9回目の開催である。

出席者は、当協会から鬼澤邦夫会長、佐藤修二副会長、高橋日出男副会長、清水賢一顧問、澤畑慎志専務理事の5名が出席。群馬経協からは児玉三郎会長(小島鐵工所会長)他16名、栃木経協からは青木勲会長(北関東総合警備保障社長)他8名が出席した。

当日は、高崎駅に集合後、群馬大学重粒子線医学センター、ガトーフェスタハラダ高崎工場を視察した。

最初に訪れた前橋市の群馬大

学では、Jパークの超小型版の加速器や治療施設を見学。重粒子(炭素イオン)を光の70%程度のスピードに加速して体の外から照射し、がん細胞を殺し、メスを使うことなくガン治療をするというもの。平成22年から治療が行われ大きな成果を挙げているという。

次に訪れたガトーフェスタハラダは、明治34年創業の和菓子屋さんから、西暦2000年記念に販売したガトラスク「ゲーテ・デ・ロワ」が大ヒットし、急成長を続ける菓子メーカー。原田義人社長から転機となった新工場建設の苦心談などを伺った。

その後、ホテルメトロポリタン高崎にて大澤群馬県知事など群馬県幹部の方々も出席し、交流懇談会が行われた。

交流懇談会では、冒頭、群馬経協会長の児玉氏より歓迎の挨拶があった。当協会の鬼澤会長より「こうした機会を通じてお互い交流を深め、広域経済の発展に貢献していきたい」と

の挨拶があった。

続いて、栃木経協の青木会長より「茨城の関名誉会長の提案が9年間も続いた。更に北関東3県の交流がきっかけとなり全国の地域の経協が近県との交流会をはじめていると聞く、たいへんよろこばしいことだ」との挨拶がなされた。

続いて、大澤群馬県知事が挨拶に立ち、「北関東自動車道の開通で3県の時間距離は格段に短縮された。茨城、群馬、栃木の3県がもつ産業基盤や観光資源のPRも含め大いに利活用を図っていきたい。ブランド調査で北関東3県は41、46、47番。北関東3県が協力し不名誉な状況を払拭したい」と述べられた。このあと、出席者紹介等がなされたあと、活発な意見交換が行われた。



本会は、前期の常磐大学、茨城キリスト教大学に続き、県内大学への寄付講座を実施、10月8日(水)には、今年度で8年目を迎える茨城大学で開講式が開催された。

当日は、三村学長から、「今まで日本の大学の教育は、I型だった。高校から人文学部に入って英語を専攻したら英語の勉強をやって卒業していく、工学部に入って土木を専攻したら土木の勉強をして卒業していく。つまり単線だった。仮に土木の勉強をするにしても、経済学の勉強をするにしても自分たちの周りはどうなっているのだろうか、他の問題との関係はどうなのだろうか、いう事を考えながらやっていかないと、本当に一番良い答えかどうかは分からない。T型人間と呼ぶ、俯瞰的な視野と高い専門性が必要である。それは、今我々が直面している問題はチャレンジしようという意欲や、どういう具体的なツールで問題を解こうとするのか?そういうスキルも必要だからである。

茨城大学は、意欲もスキルも持った人間を育てる教育にしていきたい。それには地域は凄く良い。地域の問題を考えると全部出来てしまう。今年の7月に、文部科学省が支援してくれる“知の拠点事業”に選ばれた。その支援も含めて皆さんにそういう教育環境を提供していきたい」との挨拶があった。

鬼澤会長からは「今年度も本大学において、経営者協会の社会貢献の1つである“寄付講座”を開催することになった。担当の先生方のご努力に感謝したい。私からは講師を務める方々に『実体験に基づいた若い人に参考になる話を』とお願いしてあるので、是非期待していただきたい。皆さんにとって、目からうろこの話が1つでもあれば幸いです。

本大学と常陽銀行は密接な関係があり、現在約3,800名行員がいるが、本大学の卒業生が284名、男性が180名、女性が104名、今女性の登用という事で、支店長として、女性を6名登用、本大学から2名が支店長格という事で活躍している。皆さんも縁があって常陽銀行に入られましたら、頑張ってください。

それでは、“常陽銀行が求める人材とは”というテーマで、お話いたします。

特に「働くことの意義」ですが、会社の中で新入社員にいつも言っているのは、働くのはもちろん第一義的には生活の糧を得るためというのは当然の事だが、もう1度原点に立ち戻って、確認しておいた方が良く。通常の会社だと、入社する時に、就業規則で何時から何時まで会社に出てきます、休みは土日ですとか、休暇は何日ありますとか、契約を結ぶわけですから、つまり通常約束の時間に行って、約束の時間まで仕事をして帰ると

というのが基本です。口の悪い人は、サラリーマンは時間を売る商売だと言う。要するにその時間に会社に行っていれば、余程悪い事をしないで普通にやっていれば、一定の収入が得られる。自由業の方とは違い、サラリーマンは時間を売らないといけない。どうせ時間を売らなくてはならないのであれば、自分にとってその時間の中で、イヤイヤ売っているよりは、喜び、遣り甲斐を感じながら売った方が良く、どのような気持ちで臨んだ時に遣り甲斐や喜びを感じるのか?“やらせている”と感じている時には、遣り甲斐や喜びを感じることはまずありません。どんな簡単な仕事であっても、自分なりのアイデアや創意工夫を織り込む余地は必ずあります。それを入れ込みながらやった方が良く。そしてそれがうまくいった場合には黙っていてもガッツポーズが出てくるはずですよ。

一番簡単な例で言いますと、銀行では必ずお店に駐車場がある。大きな駐車場ばかりではないので、一定のスペースしかありません。雨が降って忙しい日には混み合います。そのような時には若い男性社員が『今日は通常の仕事は良いからお客さんの誘導、駐車場の案内をやってくれ』と言われる。その時に、『何で俺がこんな事をやらなければならないのだ』と思えば、喜びなど感じるはずがありません。

ん。しかし、これが銀行にとって1つの仕事だと思って、自分なりのアイデアを出してみるか、一方通行にしたりして、それがうまく流れたとします。それでお客様から『今日は混むと思ったけれども、うまく流れてありがとうね』と言われると黙ってガッツポーズです。世の中には色々な単純な仕事がありますが、自分なりの創意工夫を折り込む余地は沢山ある。要は

受身の仕事ではなく、前向きで積極的な姿勢で仕事に挑む、これが1番のポイントであり、働くことの意義に繋がると思います」と締めくくった。

講座は、来年1月まで、単位を取得できる授業として、経営者協会の会員の方々に講義いただく予定である。



講義	テーマ	講師 案
1 講 10/1	ガイダンス	吉田茂 ((財)茨城県科学技術振興財団専務理事)
2 講 10/8	開講式	鬼澤邦夫・経営者協会会長 ((株)常陽銀行代表取締役会長)
3 講 10/15	論文・ES・プレゼンの作り方	牧良明 (人文学部 地域連携委員)
4 講 10/22	今、皆さんに伝えたいこと	内藤学・水戸地区支部会員 (水戸ヤクルト販売(株)代表取締役社長)
5 講 10/29	働く意義・学ぶ意味	小濱裕正・経営者協会副会長 ((株)カスミ代表取締役会長)
6 講 11/12	サービス業での働きがいとお客様とのふれ合い	矢ノ倉寿枝・水戸地区支部会員 ((株)水戸ロイヤル代表取締役社長)
7 講 11/19	就職模擬面接	
8 講 11/26	学生生活と就職活動	人文学部 4 年生
9 講 12/3	働く意義・学ぶ意味	関正樹・経営者協会理事、青年経営研究会直前会長 (関彰商事(株)代表取締役社長)
10 講 12/10	人材育成業の変化と人間力を養う生き方	渡辺満枝・土浦・石岡・つくば地区支部会員 ((株)エミー代表取締役社長)
11 講 12/17	働く意義・学ぶ意味	佐藤修二・経営者協会副会長 ((株)日立ライフ取締役社長)
12 講 1/7	野球哲学の実践と社会貢献活動	福井英治・水戸地区支部会員 ((株)ノーブルホーム代表取締役社長)
13 講 1/14	サービス業の現状と必要な視点	安順子・取手・龍ヶ崎地区支部会員 ((株)たつぷとりで代表取締役社長)
14 講 1/21	損害保険の営業体制	宇都宮雄介・水戸地区支部会員 (損害保険ジャパン日本興亜(株)執行役員茨城支店長)
15 講 1/28	講座のまとめ	澤畑慎志、加藤祐一 経営者協会職員茨城大学 OB 牧良明 (人文学部 地域連携委員)

ISO9001
認証取得レポート
(第11期 ISO 認証取得
プログラム参加企業)

株式会社SAC東京東海事業所 東海事業所所長 田中 剛志

〒319-1112 那珂郡東海村村松361-1
TEL : 029-287-3341 東海事業所従業員10名
〈業務内容〉 原子力施設のメンテナンス

1. 茨城県経営者協会との出会い

株式会社SAC東京は、「原子力・火力発電所のメンテナンス」を主な業務としている会社です。2011年3月11日大震災以降全国の原子力発電所は次々に稼働が止まりました。当然のことながら当社は仕事が激減し、会社の先行きが全く見えない時期を数年間過ごしてきました。

会社として品質を高めること・管理体制を向上させることが急務と考えISO取得に向けて動き始めました。

しかし、ISO取得に関して、どこに相談したらいいのか、どのくらい期間・費用がかかるのかなど全く情報がありませんでした。そこでインターネットで茨城県内に相談できる場所はないかと調べたところ、「茨城県経営者協会」を知りました。

相談に伺うとすぐにISO取得に関するコンサルタントをご紹介いただきました。民間企業で同様の業務を行っているところはありませんでしたが、「茨城県経営者協会」という公的なところからの紹介であれば安心だと考え依頼いたしました。

実際コンサルタントの先生と「茨城県経営者協会」の職員の方が何度も打ち合わせに来社していただき、スムーズにスタートできました。

2. なぜISO9001を取得しようと考えたか？

当社の規模は社員10数名の零細企業ではありますが、ひとたび工事が始まると100名ぐらいの業者の協力を得て、工事を施工しております。数名の社員で多くの業者をまとめる上で、第一にしっかりとしたマネジメントシステムを構築する必要があると考えました。

第二に差し迫った問題として工事会社でありながら数名の役員と事務方の社員以外に入社間もないメンバーしかいなかったことから事業の継続性を早急に見直す必要がありました。そこでBCP(事業継続計画)の観点からも業務の標準化・継続性が必要であると考えました。

第三に長期的展望から、避けては通れない問題として品質管理の向上が急務であり、ビジネスの要件としての認証取得に加えて、企業存続上の責任、さらにはこの機をビジネスの差別化及び企業の体質改善のチャンスとしてとらえ、システム構築を図りたいと考えたからです。

3. ISO取得まで

ISOとは、「International Organization for Standardization」(国際標準化機構)の略称です。当社が取得したISO9001は国際的な品質管理・品質保証の規格といわれており、単に製品の品質だけではなく、企業の管理体制が適切であるかを見極めるものでもあります。そのため第三者機関が審

査し、登録する仕組みになっています。

当社ではISO取得に際して専任社員をいれずに兼務で行うこと、コンサルタントにできるだけ頼らずに社内に経験と知識を蓄積していくことが重要と考え、2013年9月頃私が営業兼品質管理責任者、もう1名総務兼品質管理担当者の2名で取得に向け動き始めました。

取得までの手続きの概要は次のとおりです。

【1.現状確認】

まずはどのようなルールで業務を行っているか、どのような文書・様式があるのかを確認しました。見積もり、契約、設計、施工、工程、検査、完成までの各工程も再確認しました。

【2.品質マネジメントマニュアルの作成】

ISO9001規格に従って作成しました。ただし、会社独自の評価や専門用語や特殊環境を鑑みて現状の管理体制を継続することを前提としたQMSにしました。

【3.規定・規則・様式の作成】

規定では定めていませんでしたが、慣例でなんとなく決まっていたことを改めて規定・規則として作成しました。また各種様式はありましたが、どの様式にも原因と結果しか記載されない様式だったので結果に対する対策や再評価を確認するように変更しました。

【4.内部監査】

社員数名に内部監査員の教育を受けさせ、内部監査員が自分が属していない部門を監査し評価できるようにしました。

【5.マネジメントレビュー】

内部監査・外部審査の結果、顧客からのフィードバック(苦情やアンケート情報など)、予防処置・是正処置の実施状況、前回までのマネジメントレビューの結果に対するフォローアップ、QMSに影響を及ぼす可能性のある変更(組織変更・市場動向・規格改訂動向など)改善のための提案、QMS・プロセスの有効性の改善、顧客要求事項への適合に必要な製品の改善、資源の必要性について議論しました。

【6.審査】

審査機関の選定は、コンサルタントの先生と相談し、私たちの業界をよく知っている審査会社を選択しました。一次審査を2014年1月に受けましたが、指摘事項が10数点におよび厳しさを感じた反面、私たちのシステムがいかにも不完全か学ぶきっかけになりました。それから二次審査までの二ヶ月間が最も大変でQMSを何度も見直し、何度も社内で議論しました。

コンサルタントの先生が、私たちは少人数で対応しなければならないこと・特殊な業界であることなどをご理解いただき、丁寧にご指導いただきました。また女性社員を品質管理担当者に就かせたところ、コンサルタントの先生にすべて依存することなく自ら考え、自社にあったシステムを構築してくれました。

しかし社内においては社員の意識はバラバラで、まとめることができないままISOを取得するために業務を沿わせるような

強引な進め方をしてきました。結果、未だに全社員にISOに関する教育や日常業務にISOを活かす取り組みができていないのが現状です。これからISOを業務にどのように活かすか、社員一人ひとりが考えることができる組織体制を作っていく必要があると考えます。

4. 取得後の変化と課題

取得後顧客からの評価や信頼性が少し変わってきているように感じますが、まだ取得して数ヶ月しか経っていないのでそれほど大きな変化を感じません。

取得した今私が一番期待しているのは社員のインターナルブランディングを高めることです。インターナルブランディングとは、企業の進むべき方向性をもとに社員の目指すべき方向性を設定し、様々な施策を展開することにより、社員の意識や行動を変革し、企業の目指すブランド価値を実現することです。そのためには教育制度・人事制度などを同時に変えてくることが必要だと考え、現在抜本的な改革を行っております。

早速1年目の再審査がありますが、審査に向けての準備をしなければなりません。ISOを取得することによってしっかりとしたマネジメントシステムを確立しようとしていましたが、逆にISOの取得・継続が目的になり、審査が重荷に感じてしまっています。

社員全員がISOをよく理解し、より効率的に業務が進める

ことができ、業務の標準化を確立でき、当社としてのマネジメントシステムを作り上げていくことが私たちの最も必要なことであり、現状の問題点であると考えます。

5. 今後の展開

ISO規格を取得したことで、全てが終わったわけではありません。これからが実際の品質管理体制のスタートであると考えます。各部門の責任範囲・目標を明確にすること、役職にあった業務を行うこと、適した人事評価システムを確立することが、今取り組むべき課題だと考えております。そのためにISO9001のマネジメントシステムを活かし、会社と社員のベクトルを合わせていくことが大切です。

社員満足度をあげていくことで顧客満足度も比例して向上すると考えていますので、社員ひとりひとりが精神的・物理的に働きがいのある職場づくりを行っていきたいと考えています。顧客や株主同様、社員もステークホルダーであることを再認識してもらえよう経営側に働きかけ、活気ある職場作りに役立てていきたいと考えています。

(寄稿：SAC東京東海事業所・林洋介氏)



政策委員会

理事会提出議案等について意見交換

10月24日(金)、第2回政策委員会(正副会長・各支部長・各委員長等主要役員会議)が水戸市・三の丸ホテルにて開催され、会務報告、理事会提出議案として上期事業報告、県政要望・提言案、などについて意見交換が行われた。

鬼澤邦夫会長の挨拶のあと、高橋日出男副会長が議長となり議事を進めた。

会務報告では、会員状況、会計状況、行政の動向などが澤畑専務理事より説明があった。

理事会提出議案の①平成26

年度上期事業活動の報告、②経協としての「県政に関する要望案」と茨城産業会議の「県政要望」の進捗状況と案文の報告、③会員満足度調査案について事務局より説明があり、理事会への提出が了承された。

その後、

各地区支部長、各委員長間の意見交換がなされた。



地域関係委員会

第2回 地域関係委員会を開催
県広報戦略室長との意見交換も併設

地域関係委員会(委員長 徳成卓也氏 東日本電信電話(株)茨城支店長)は、10月1日(水)、経営者協会会議室において、26年度2回目となる委員会を開

催。徳成委員長、豊崎繁副委員長(茨城いすゞ自動車(株)代表取締役社長)など15名出席のもと、26年度事業活動の進捗状況と下期計画について協議された。

議も進められ、12月に県内における地域課題解決に向け活動を展開しているNPO・市民活動の現状をヒヤリングする機会を設けることが確認された。

委員会後半では、茨城県知事公室広聴広報課戦略室室長の前田優氏を講師に招き、「茨城県が取り組むイメージアップ戦略」と題して講演と意見交換を行うとともに、茨城県のイメージアップに向け、今後、地域関係委員会も協力を進めていくこと等が確認された。



また、現在展開している社会貢献活動“安全・安心なまちづくり運動”に次ぐ、新たな社会貢献活動の展開に向けての協

地域関係委員会

他セクターとの連携で
共助社会づくりフォーラムを開催

地域関係委員会(委員長 徳成卓也氏 東日本電信電話(株)茨城支店長)は、10月23日(木)、トモスミビル4階において、内閣府、茨城県、大好きいばらき県民会議、茨城NPOセンターコモンズ共催の「共助社会づくりフォーラムin茨城」に協力。企業・NPO・行政など多様なセクターから110名余りの方々が参加した。

現在、内閣府「共助社会づくり懇談会」では「共助社会」をキーワードに、地域の活性化や、全ての人々が能力を発揮できるような下支えを進める取り組みが議論されており、茨城は、様々な組織が連携して地域課題の解

決にあたる「地域円卓会議」の取り組みが、全国的に先駆けて進められてきている中の開催となった。

当日は、開会にあたり、内閣府政策統括官(経済社会システム担当)付参事官(市民活動促進担当)の日下部英紀氏からフォーラムの意義を含めた挨拶があり、第1部では、ひきこもりの若者や路上生活者、障がい者といった周囲の助けを必要としつつ声を上げられない人を支援する方法について、県内のNPO代表らが意見を交わした。

第2部では、企業、行政、団体などのステークホル

ダーが、地域で資源を提供し合って支え合う関係づくりをテーマに取り組みの課題などを意見交換、「無縁社会」という言葉が生まれるほど、社会的孤立・排除が現在進んでいる状況を打破するヒントを探り終了した。

また今回は、発言内容がパソコン文字通訳を通じて画面に投影され、参加者に好評だった。



経営教育委員会

第13期マネジメントマスターコースが終了

経営教育委員会(委員長 植木誠氏 (株)筑波銀行 代表取締役副頭取)は、9月19日(金)に、第13期マネジメントマスターコース第3講(現地視察)、10月9日(木)、水戸プラザホテルにて、第4講(最終講)を開講し、全4回コースのすべてを終了した。

第3講では、それまで学んできた“アイエフエフネットグループ”を訪問、グループの匠ソホラ会議室において同グループの概要説明、現地視察でのヒ

ヤリング項目などについてディスカッションを行った後、障がい者の就労支援を行うアイエスエフネットライフや企業への就労をめざす障がい者の訓練を行うアイエスエフベネフィットなどのグループ企業を見学、その後会議室に戻り、管理者の方々から就労支援での感動やエピソード、苦労話などを伺った。

その後、同グループが経営するレストラン、ラルティザンに移動、渡邊幸義代表から、就労困難者の就労支援にかける想いを中心とした講演をいただいた。

最終講では、NPO法人日本ファシリテーション協会の徳田太郎氏のリードの元、10月のアイエスエフネットグループ

の現地視察で得た学びを自社に活かすワークショップを開催。

ワールドカフェ方式やオープンスペース方式で、他の参加者の対話で探究、発見していく事によりアイデアが刺激され、考えが深まるワークショップが進められた。

アンケートでは、「結論を求めない対話方式なので、発想が自由で広がりができる」「ただの講義ではなく、自己参加型で、自らが答えを出す手法でより気づかされた」など、大変高い評価をいただいた。次年度の希望では、「今回のような優れた企業に学び、現地視察&自社に活かすコース」や「役員や経営幹部として必要な、リーダーシップや経営の要諦などを学ぶコース」を求める声が多かった。



経営教育委員会

ヒューマンエラーは原因ではなく、結果
ヒューマンエラー防止セミナーを開催

経営教育委員会(委員長 植木誠氏 (株)筑波銀行 代表取締役副頭取)は10月15日(水)、関西大学社会学部社会安全研究科教授の中村隆宏氏をお招きし、ホテルレイクビュー水戸にて第4回ヒューマンエラー防止セミナーを開催した。

セミナーでは、人は情報処理能力を超えた限界以上の仕事をするとエラーをおこす。このため、どんなベテランでも人間はエラーを起こす生物である事を前提に考える必要がある事を学んだ。

午後からは、エラーへの対処について、①エラーは「原因」

ではなく「結果」である、②エラーそのものを減少させる「エラー禁止型対策」に陥ってはならない、③発生したエラーを事故や災害に発展させない対策が重要である事を前提にケーススタディなどでヒューマンエラーの本質を学んだ。

参加者へのアンケートでは、「今までは原因の追求ばかりがメイン的な考え方だった。結果の背景の把握が必要

と改めて考えさせられた」、「十分に注意してもエラーが発生することが実体験できたのはよかった」、「ヒューマンエラーに対しての考え方が違う方向から見えた」などの声をいただいた。



労働企画委員会

新日鐵住金(株)鹿島製鐵所において第2回若手の勉強会を開催

労働企画委員会(委員長 館岡司氏 (株)日立製作所電力システム社日立事業所副所長)は10月2日(木)、新日鐵住金(株)鹿島製鐵所において、第2回目となる若手人事労務担当者のための勉強会を開催した。

本会合では、メンバー 32名を4グループに分け、「新入社員～5年目までのモチベーション向上策と育成プログラムを考える」をテーマにグループディスカッションを行った。

メンバーから振り返りでは、「規模、業種の異なる他社の教育体系を学ぶことで、自社の制度の不足している点が浮き彫りになり、大変有意義なディスカッションであった」、「日頃は自社内で教育制度を議論する機会が少ないので、大変刺激に

なった」といった学び合いで得られたものについての感想が寄せられた。

なお、当日は、午前中に同社鹿島製鐵所の見学を行った。

次回は、11月に(株)日立ハイテクノロジーズにおいて、第3回目となる会合を開催する予定である。



青年経営研究会

“水素エネルギーの可能性を探る”九州視察会を実施
青年経営研究会・外交委員会&研修委員会の合同例会を開催

青年経営研究会(会長 磯崎寛也氏(株)アイ・ティ・エイチ代表取締役社長)は、外交委員会(委員長 栗山武志氏 栗山電気(株)代表取締役社長)と研修委員会(委員長 藤澤昭彦氏(株)つくばユールワールド代表取締役社長)の合同例会として、10月7日(火)～9日(木)、九州視察会を開催し、長崎と福岡を訪問した。18名のメンバーが参加。

長崎では、世界遺産登録への気運が高まりをみせる「軍艦島(端島炭鉱跡)」、福岡では将来のエネルギーとして期待され、最先端の研究と世界最大の水素タウン等の実証実験が行われるな



ど世界をリードする水素産業の拠点を目指す「福岡水素タウン前原事務所」の二箇所を目玉とした今回の視察は、“水素”と“石炭”という新・旧のエネルギーの現状を考察する貴重な機会として、メンバーの企画立案により開催された。

初めに訪れた“軍艦島(端島炭鉱跡)”は、明治から昭和にかけて海底炭鉱によって栄え、その当時は東京以上の人口密度を有していたが、1974年の閉山にともない、島民が島を離れてからは無人島の状態が続いている。大正5年に建設された日本初の鉄筋コンクリート造の7階建ての高層アパートが印象的で、現在は年間17万人の人々が訪れる観光地へと変貌。また世界遺産への登録に向けた気運も高まりをみせている。

続いて訪れた“福岡水素タウン前原事務所”は、福岡県前原市の南風台団地・美咲が丘団地を対象に、LPG仕様家庭用燃料電



池「ENESECOLP-1」が150台設置されている。福岡県・福岡水素エネルギー戦略会議が、産学連携の下、「環境にやさしい水素エネルギー社会」の実現を目指して、2008年度より「福岡水素戦略(Hy-Lifeプロジェクト)」の第一弾として展開している。

2泊3日の短い滞在だったが、この期間は長崎市内で“日本3大くんち”と称される「長崎くんち(大祭)」の開催期間中でもあり、大変な賑わいの中、参加者一行は鎖国時より海外貿易が行われてきた長崎独自の文化にもふれることができるとともに、水素エネルギーの可能性を実感できた充実した視察会であった。

支部だより

NOV. 2014

Branch office report

県北地区支部

支部総会を開催

県北地区支部(支部長 三浦利春氏(株)茨城サービスエンジニアリング代表取締役社長)は10月8日(水)、「五浦観光ホテル別館大観荘」(北茨城市大津町)において、平成26年度支部総会を開催した。

はじめに、三浦利春支部長より「東日本大震災から約3年半が経過し、被害の大きかった県北地域においても、主要なインフラの修復はほぼ完遂したと思われる。当支部では、地域の復興、発展のためにこれまで以上に会員の皆様の経営力を高める活動を展開していく。そのためには、組織をさらに強固なものとしていく必要があり、昨年度に引き続き、経協全体で会員増強運動に取り組んでいる。当支部においても、会員数が一社でも多くなるよう会

員の皆様のお知り合いの経営者をお誘い下さるようご協力をお願いしたい。」と挨拶をされた。

続いて、鬼澤邦夫会長が「本日は、支部総会にお招き頂き誠にありがとうございます。会員の皆様に『経協に入会して良かった』と感じていただくためには、情報の質・量をともに高めるほか、ビジネスマッチングなど幅広い事業を展開していく必要がある。会員数が増えることで、交流の機会や深みも増していくものと考えている。当協会としては、これまで以上に会員の皆様に『経協に入会して良かった』と感じてもらえるような事業活動を行っていきたい。」と挨拶をされた。

引き続き、報告に移り、①「平成26年度経協活動重点事項」に

ついて澤畑専務理事が報告を行った。その後、②平成26年度支部活動計画を大高幹事長((株)中村自工深川製作所取締役工場長)が説明を行い、満場一致で承認された。

記念講演では「ミッション経営：企業の原点にもどる」と題し、スターバックスコーヒージャパン(株)元CEOの岩田松雄氏にご講演頂いた。



常陸・那珂地区支部

常陸・那珂地区支部主催講演会 & 企業交流会を開催

常陸・那珂地区支部(支部長 柳生修氏 コロナ電気(株)代表取締役)は、10月20日(月)、ホテルクリスタルパレスにおいて支部主催の講演会&企業交流会を開催した。

柳生支部長、三代正夫副支部長(センター電機(株)代表取締役)出席のもと、当日は80名の参加を得た。

今泉良幹事長((株)日立製作所都市開発システム社総務本部総務部長)の司会により進められ、講師には本年6月の本部・定時総会併設の記念講演会でも

お招きし、聴講者より大変好評をいただいた、筑波大学大学院教授の松崎一葉氏を再度お招きし「今、経営者に求められる心」をテーマに2時間のご講演をいただいた。

6月の総会に続き、再度聴講した参加者からは「松崎先生のお話は、何回聞いても勉強になる。経営者はもちろんのこと、部下をもつ管理者など、幅広い層の方々に“気づき”を与えてくれる講演だった」といった感想

もお寄せいただいた。

講演後には、松崎講師にもご臨席を賜り、講演聴講者との交流が深められた。



水戸地区支部

平成26年度水戸地区支部総会を開催

水戸地区支部(支部長 西村寛氏 (株)水戸京成百貨店代表取締役社長)は、10月7日(火)、水戸京成ホテルにおいて、平成26年度水戸地区支部総会を開催した。出席者は56名。

開会にあたり、西村支部長より「今年度も経営者協会では、鬼澤会長を中心に会員増強に積極的に取り組んでいこうという重点事項がある。本日も新入会員の皆様にもご参加いただいているが、お礼を申し上げるととも

に、支部活動への積極的なご参加をお願いしたい。本日の記念講演会では、『次世代がん治療』をテーマに筑波大学の熊田先生をお招きし、世界から注目される画期的な治療法「BNCT」について解説いただけるので、皆様にも大変有用な講演となることを確信している」との挨拶があった。

続いて、鬼澤邦夫会長より「茨城経協では、組織基盤の強化を図るため、昨年4月より展開している会員増強運動を今年度も継続している。新入会員の皆様に、改めて御礼申し上げるとともに、西村支部長、太田・吉久保・黒澤・幡谷副支部長はじめ、役員幹事、会員企業の皆様のご尽力に感謝したい。今

後とも最多の会員を抱える支部として、支部会員企業間の交流を密に図り、会員企業の経営力の強化、そして、地域の活性化に繋げて頂きたい」との挨拶があった。

その後、前回の支部総会以降入会いただいた新入会員の紹介が行われた後、経営者協会・水戸地区支部活動について報告がなされ、総会は終了した。

記念講演会では、筑波大学准教授の熊田博明氏をお招きし、「次世代がん治療～BNCTの実用化に向けた現状と将来展望～」と題し、次世代がん治療「BNCT」についてご講演いただいた。参加者からはその治療技術への期待の声・地元中小企業と連携した取組への興味の声が多く寄せられた。

その後の交流パーティには、講師の熊田博明氏にもご参加いただき、懇親を深め散会した。



水戸地区支部 鹿行地区支部

合同臨地研修会を開催
レクサス水戸、千代田テクノ大洗大貫台事業所を視察

水戸地区支部人事労務担当者会議(代表幹事 川上康郎氏 茨城交通(株)執行役員総務部長)、鹿行地区支部労働問題研究会(座長 石田晃康也氏 新日鐵住金(株)鹿島製鐵所 労政人事室長)は、合同の臨地研修会を10月23日(木)に開催、19名が参加した。

今回は、室町時代から伝わる伝統的礼法の一つである「小笠原流礼法」を取り入れながら、レクサス流に作り上げた接客マナーで「最高のおもてなし」を提供する“レクサス水戸”、昨年11月に営業所棟、事業所棟、会議棟が完成し、同事業所を拠点として、より精度が高く、安定性などに優れた新型ガラスバッジによる放射線測定サービスを実施する“千代田テクノ大洗大貫台事業所”の見学を内容に開催された。見学後の質疑応答では、両社とも参加者からの様々な質問に対し、丁寧に回答戴いた。

参加者からは、レクサス水戸では、「従業員全員がレクサスブランドに誇りを持ち、その高い接客術が大変参考になった」、「全てお客様目線であった。初心に帰れた気分である」、千代

田テクノでは、「女性従業員の割合が高いが、その作業が非常に熱心であり、参考として自社に持ち帰りたい」、「ガラスバッジの製造から測定まで一貫して対応できる技術は大きな強みであると感じた。自社の強み

を再考し、営業戦略を構築していきたい」などの声が寄せられた。

見学終了後には、大洗町内で参加者間の交流を図り、散会した。



TECHNOL

2014. 10. 23

㈱千代田テクノ 大洗大貫台事業所 見学記念



県西地区支部

平成26年度第2回役員幹事会を開催

県西地区支部(支部長 佐藤計二氏 日立化成(株)下館事業所長)は、10月9日(木)、ホテル新東において、平成26年度第2回役員幹事会を開催した。

開会にあたり加藤事務局長から、支部役員・幹事の変更、新

幹事の紹介、支部活動への協力の感謝を内容とする挨拶があった。

その後、幹事長の小島守氏(関彰商事(株)執行役員人事部長)の進行で、上期の事業の反省と下期事業計画について検討を行

い、2月3日(火)開催の支部総会では、土浦全国花火競技大会で内閣総理大臣賞を獲得された、野村花火工業株式会社の野村陽一社長にご講演いただく事で承認された。

鹿行地区支部(支部長 竹中弘明氏 新日鉄住金(株)鹿島製鐵所副所長)は、10月17日(金)、神栖市・鹿島セントラルホテルにおいて26年度の支部総会を開催した。

竹中支部長、替地享二副支部長(鹿島都市開発(株)代表取締役社長)出席のもと、冒頭、竹中支部長より「東日本大震災から早いもので3年半が経過した。被害の大きかった当鹿行地域においても、主要なインフラの修復などは相当進んできているが、原発事故の風評被害など課題は残っている。地域経済の復興、そして発展のために、これまで以上に、会員の皆様の経営力を高める活動に努めて参りたい。そのためには、さらに組織を強固なものとしていく必要があり、今年度、経営者協会では会員増強に取り組んでいる。当支部の会員が一社でも多くなりますよう、是非、皆様もお知り合いの経営者をお誘い頂きたい。本日はこの後、特別講演会として元タカ

ラ物流システム代表取締役会長兼タカラ長運代表取締役会長の大谷将夫様をお招きし「儲かる会社に変える」をテーマにご講演頂きます。我々に何らかのヒントが得られるのではないかと期待しておりますので、最後までお付き合いをお願い致します」と挨拶された。

続いて、加藤祐一事務局より経営者協会の重点事業、友澤邦夫幹事長((株)トクヤマ鹿島工場総務課長)より支部活動の進捗状況が報告された後、前回の総会以降にご入会頂いた新入会員の自己紹介が行われた。

その後、特別講演会へ移り、大谷将夫氏より「儲かる会社に変える～人を創り、人を活かし、人に任ずという組織経営～」と題してご講演頂いた。

大谷氏は「周りからの反対を押し切り、10年間赤字だった長崎運送(現タカラ長運)の再建にあたったが、未経験の物流事業を知るため、コンサルタントを

頼み、2,000時間の猛勉強を行った。そして“絶対成功させる”という強い決意で出向き、8ヶ月で黒字化を達成した。その際には会社の強みと弱みを徹底的に分析し、他社との差別化戦略を進めた。また改革を進める際には“合理主義”と従業員とのコミュニケーションを密にする“人間主義”のバランスを取ることを大切に、最初の3ヶ月が勝負とスピーディに経営を進めたことが功を奏した」と語られた。

特別講演会終了後には交流パーティが開かれ、大谷講師、鹿嶋市の市村副市長と神栖市の鈴木副市長にもご臨席をいただき、出席者一同は懇親を深め散会した。



支部共通事業

去る10月21日(火)、土浦市において、支部共催事業「新入社員フォローアップセミナー」を開催した。

講師に、ラ・フォレスト・ディ・マニフィカの支配人である岡部成昭氏をお招きし、「徹底して、ビジネスマナーの『基本』『原則』を学び直す、チームで課題をク

リアする困難さを学ぶ～」をテーマに研修会を開催した。

はじめに、ビジネスマナーの要素の中でも、「印象力」について学んだ。好印象を持たれるビジネスパーソンの特徴を、アルバイトメソッドの法則をもとに解説を行い、具体的に、新入社員が今後どのようなポイントに留意すべきかを述べられた。

また、言葉遣いの重要性についても強調された。「言葉遣いひとつで、顧客との小さなすれ違いが、深刻なクレームに発展してしまうことが多い。尊敬語、謙譲語、丁寧語をしっかりと使うことの出来るビジネスパーソンは、いつも信頼され、多少のミスでも挽回することができる。逆に、言葉遣いが出来ていないビジネスパーソンは、日頃から好印象を持たれ難く、小さなミ

スでも、顧客から『ここぞ』ばかりにクレームをつけられることがある。新入社員のみならずにとっては、今しっかりと学べるべきは、基本中の基本ではあるが、正しい日本語をしっかりと使えるようになることです」と述べられた。

チームで課題をクリアする困難さについては、参加者56名が9チームに分かれ、メンバー全員がタイミングを揃え「分離礼」を行うロールプレイを用い学んだ。参加者からは「初対面の業種も職種も異なるメンバーと、制限時間が決められた中、一つの課題解決に向けて努力したことは貴重な経験となった。メンバーの意識を一つにすることの大切を学ばせて頂いた」との感想が寄せられた。



慶事のお知らせ

去る 11 月 3 日、本年度秋の叙勲受章者が発表され、下記の方々が受章されましたので、ご報告致します。

【瑞宝中綬章】

川俣勝慶氏

茨城県信用保証協会 会長（元茨城県副知事）

【旭日小綬章】

打越芳男氏

（株）茨城木材相互市場 取締役副社長

【旭日双光章】

川又諭氏

顧問、当協会元副会長

五十嵐達男氏

イガラシ綜業（株）取締役会長

去る 11 月 7 日、茨城県の発展に著しい功績があった方々を讃える茨城県表彰の受章者が発表され、下記の方が受賞されましたので、ご報告致します。

阿部孝之氏

金澤工業（株）代表取締役

茨城県最低賃金が「時間額 7 2 9 円」に改定

茨城労働局では、茨城県最低賃金を

時間額 7 2 9 円（昨年度額より 1 6 円引上げ）に改定決定しました。

平成 2 6 年 1 0 月 4 日（土）から茨城県内の全産業・全労働者に適用されます。

『会員増強運動2014』の状況

目標まで6社、さらなるご協力を

1. 10月の状況

10月は、支部役員・幹事の皆様、役員・委員会委員の皆様からのご紹介により、入会7社、退会2社、前月比プラス5社となり、前年度比47社増、年度目標の870社まであと6社に迫りました。

会員の皆様のご協力に感謝いたします。早期目標達成に向けて引続きのご紹介をお願いいたします。

2. 『会員増強運動2014』について

会員の状況（10月31日現在）

支部 項目	県北	日立	常陸・ 那珂	水戸	土浦・石岡 つくば	取手・ 龍ヶ崎	県西	古河・ 坂東	鹿行	合計	
25年度末 会員数	38	85	73	243	118	54	62	51	93	817	
入会数		9	3	14	7	11	8	2	8	62	
退会数	1	2	2	4		1	3	1	1	15	
会員数	37	92	74	253	125	64	67	52	100	864	
										前年度比	+ 47

平成26年度目標 870

目標比 ▲ 6

平成26年度は、協会の事業運営の指針であります「第7次中期運営要綱」の初年度にあたります。

今後ますます、会員の皆様の相互啓発やビジネス交流の活性化を加速させるために、また「数は力なり」でこれまで以上に行政等に対する政策提言力の強化を図るためにも、平成26年度も引続き『会員増強運動2014』に取り組んでおります。

今年度は、本部役員等に限らず、幅広くすべての会員の皆様から、お知り合いなどをご紹介いただき、運動を盛り上げてまいります。

つきましては、会員の皆様におかれましては、当協会にご入会いただけそうなお知り合いなどがいらっしゃるいましたら、1社からで結構ですので、是非お誘いいただき、右ページの「紹介票」にて事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

※FAXのほか必要事項をご記載いただければ電子メールでも結構です。

メールアドレス：info@ikk.or.jp

なお、「会員増強運動2014」の進捗状況等につきましては、この「茨城経協」を通じて、毎月会員の皆様へお知らせしてまいります。ご協力のほど重ねてお願い申し上げます。

【会員増強運動2014】 入会見込先 紹介票

茨城県経営者協会 行き

FAX : 029-224-1109

御社名	
役職氏名	
TEL	

“会員増強運動 2014”の入会見込先として、下記のとおりご紹介致します。

【入会見込先の情報】

No.	会社名	電話番号	先方担当者（役職氏名）	連絡方法（○印）
1			役職：	直接連絡可
			氏名：	ご紹介者経由
2			役職：	直接連絡可
			氏名：	ご紹介者経由
3			役職：	直接連絡可
			氏名：	ご紹介者経由
4			役職：	直接連絡可
			氏名：	ご紹介者経由
5			役職：	直接連絡可
			氏名：	ご紹介者経由

【備考】

--

※恐縮ですが、コピー、ご記入の上、FAXくださいますようお願いいたします。

新入会員紹介

株式会社日立トラベルビューロー

■取締役社長 大谷 一彦



Data
 所在地／日立市大みか町 5-2-1
 TEL 0294-53-3444
 FAX 0294-53-1353
 業種／旅行業
 従業員／108名

Appeal point

弊社は日立グループの旅行会社として、世界で活躍する日立グループ及びグローバルに活躍する企業の皆様の海外出張者・海外駐在者を長年サポートしてまいりました。

航空券や鉄道チケットはもとより、国内外団体旅行・展博や会議の手配、ホテル・レンタカー手配、パスポートやビザの申請代行、外貨の準備や保険の申込等、全てが対象です。

さらに、コンサルタント業務にて、顧客の経費削減にも貢献しております。

弊社のモットーは何をおいても「顧客第一主義」であり、今後も国内外のお客様のため、きめ細やかなサービスと旅費低減を提案し続けます。

You & IC

「ともに、いきる」を実現する大学
茨城キリスト教大学

文学部	生活科学部	看護学部
文化交流学科	心理福祉学科 (2013年度より 人間福祉学科と名称変更)	看護学科
現代英語学科	食物健康科学科	経営学科
児童教育学科 児童教育専攻		経営学科
児童教育学科 幼児保育専攻		

携帯から簡単アクセス▲

〒319-1295 茨城県日立市大みか町 6-11-1 JR常磐線大塚(おおみか)駅隣接
<http://www.icc.ac.jp/> 携帯用 <http://www.icc.ac.jp/m/>

Re-Tem

未来のために、よりよい自然環境を保全し、希望と生命力にあふれた社会の実現に貢献します。

資源リサイクル・環境コンサルティング・エコマネジメント
 資源循環の総合ソリューションカンパニー

株式会社リーテム

水戸工場 〒311-3116 東茨城郡茨城町長岡3520 Tel:029-292-1220
 東京工場 〒143-0002 大田区城南島3-2-9 Tel:03-3790-2100
 本社 〒101-0021 千代田区外神田3-6-10 Tel:03-3258-8586
<http://www.re-tem.com/>

中間的就労の場を増やしましょう

茨城NPOセンター・コモンズ 常務理事 横田 能洋

皆様は中間的就労という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。一般就労と障害者の無償に近い作業の中間といえますか、最低賃金を払ってまで雇用することは難しいという状態の人に仕事の機会をつくるための働き方です。ニート、ひきこもりへの行政の対応が遅れ、このままでは親なきあとに生活保護に陥る人が相当程度見込まれます。生活保護費が増えることは増税につながります。それ以上に、本当は働きたいと思っているのに訓練の場がないために引きこもっている人材を生かさないのは経済にとっても大きな損失です。そこで重要になるのが、ひきこもりなどブランクがあつてすぐに一般就労ができない人をトレーニングするための中間的就労なのです。来年度施行される生活困窮者自立支援法では、就労に困難を抱える人を訓練のために企業などが雇用する場合に県が中間的就労として認定する仕組みが盛り込まれています。

○具体的な取り組み事例

「しごとや」

栃木県では、中間的就労のモ

デルとして全国から注目されている「しごとや」というプログラムがあります。これはひきこもりの若者などを支援してきたNPOが地域の事業所と連携しながらつくってきた仕組みです。対象となるのは、長年引きこもっていた若者で、多くが人と話をしたり対人関係をつくるのが難しい人たちです。「しごとや」は座学ではなく、仕事で人の役に立つ、という当たり前のことをして社会経験を積み、自信と意欲を取り戻せるよう支援します。若者3人とジョブトレーナー1名の4名が、地域の農家や企業などから頼まれた仕事に出かけていってチームで仕事をします。4人で働いて1日2万円程度請負料をもらい、活動した若者は1日2千円の報奨金をうけとります。のこりはトレーナーの人件費になります。この仕組みでは、若者は交通費を持ち出さなくても様々な仕事を同じような仲間と共に経験できます。仕事を頼む側は、トレーナーに仕事の内容を説明するだけでよいので負担が少なく、2万円で通常であれば二人分くらいの仕事は任せられます。実際に車の整備を行うある企業では、洗車などのラインを「しごとや」が請け負っていて、そこで仕事をしていた3人の若者が、企業で採用されました。

企業にとっても、訓練を受け入れることで、休まず真面目に働く若者と出会うことができるのです。

若者の意欲や可能性を引き出すノウハウをもつNPOと地域の事業所が請け負い仕事で連携することでまず接点をつくることができます。次にこの人ならば、この仕事ならできる、となったところから徐々に一般就労に近づけていけば、若者にとっても企業にとっても負担をかけずに雇用につなげることが可能です。栃木の「しごとや」は地域の50もの事業所と連携しています。わたしたちは茨城でもこのような仕組みをこれからつくっていくことにしています。

この仕組みを具体化する際に鍵になるのは、仕事の開拓、ジョブトレーナーの養成、訓練プログラムの運営経費の確保です。こうしたプログラムがなく家にこもっている若者は県内に1万人以上いるといわれています。埋もれた人財を企業の一員としていけるようにするため企業とNPOと行政が連携していければと思います。

【数に込められた 思いと意味】

8

「3. 4. 5. 6. 7」に学ぶ叡智

k2マネジメント代表取締役 葛田 一雄

江戸の町は、18世紀になると人口140万人に達し、世界最大の都市となっていた。江戸市街地の大半は武家屋敷が占めていたので、人口の大半を占める町民は限られた町人地にひしめき合っていたことになる。町人地の人口密度は現在の豊島区の3倍にも達していたほどであった。

水戸あるいは旧水戸藩の領域である茨城県北部で生まれ育った人の気質を指して、「みとっぼ」という。「～っぼ」は、「～っぽい」の助詞、気質をいう。

江戸の気質を「3. 4. 5. 6. 7」の数字から学び、現代を生きる知恵にしてみたい。

【三が好まれた】

①御三家御三卿三奉行

大名は、親藩、譜代、外様の三層制で管理されていた。水戸、尾張、紀州家、徳川の名跡は御三家である。

御三卿(ごさんきょう)は、江戸時代中期に徳川氏の一族から分立した大名家である。田安徳川家(田安家)、一橋徳川家(一橋家)、清水徳川家(清水家)である。

三奉行は、江戸幕府の寺社奉行、勘定奉行、町奉行の総称であるが、それぞれが対等の関係ではなく、勘定奉行および町奉

行が旗本から任命され、寺社奉行は譜代大名から任命されていて三奉行の筆頭格とされていた。

②三代祭り

江戸三大祭りは三つの大きな祭りのことをいい、「神輿深川、山車神田、だだっ広いが山王様」と評された。神田祭は神田神社、山王祭は日枝神社、深川祭は富岡八幡宮の祭りである。

東北三大(夏)祭りは、仙台七夕まつり、青森ねぶた祭、秋田竿燈まつりである。日本三大祭りは、祇園祭(京都市八坂神社)、天神祭(大阪市大阪天満宮)および神田祭(東京都神田明神)である。

水戸黄門まつりは、毎年8月の第1金・土・日の3日間開催されている。

③三代続く

三代続いてこそ江戸っ子。江戸の町の成立の経過からして、土着の江戸っ子などはいない。江戸の人々は元はといえば各地から集まっている。三代かけて磨き上げなければならぬ気質こそが、「江戸っ子」と呼ばれる所以である。

江戸っ子は自分の見識を大事にしたものの相手を思いやる心を第一義とした。自分を磨き、そして相手を尊重する。身分や血筋、門閥に捕らわれず、自由

な発想が出来る人間を「江戸っ子」として互いが認めていたのである。江戸時代という封建制のなかにあっても、それに拘束されない、自由人たる江戸っ子の生き様をみる思いである。

【責種名族は四つ】

源氏・平氏・藤原氏・橘氏の四姓をまとめた言い方が「源平藤橘」である。

藤原氏は、四姓のうちもっとも古い。大化の改新を実現した中臣鎌足に始まる。平安時代以来、天皇家との関係を深め、対立勢力を排斥し、公家社会の高位を占有し五摂家・清華家・大臣家などの多くの流派に分かれた。伊達氏、結城氏、上杉氏、竜造寺氏などの大名たちは地方に下った藤原氏の流れを汲んだ諸氏であった。

藤原氏の家紋は「藤」である。摂関家筆頭近衛氏が「牡丹」、摂関四家では鷹司家が「牡丹」、九条・二条・一条家が「藤」紋を用いる。公家では三条家が「唐花」、西園寺家が「巴」、徳大寺家が「木瓜」、今出川家が「楓」、冷泉家・大飯御門家が「酢漿草」紋を用いている。

橘氏は敏達天皇を太祖とする氏族で、元明女帝に仕えた畠山養三千代が橘宿禰姓を賜り、葛城王が臣籍に列し橘諸兄を称し

た。諸兄は橘朝臣の姓を賜与され、子孫は橘姓を称した。諸兄の子奈良麻呂が藤原仲麻呂との権力争いに敗れ、公家社会では勢力を失い、四位五位の下級官人として家系を伝えた。

橘氏の代表紋は「橘」、橘姓を名乗る家が多く用いている。橘姓を称した楠木氏は「菊水」を家紋とした。

平氏は、桓武天皇の皇子葛原親王の子高棟王・高見王らが臣籍に下って平朝臣姓を名乗った。天慶の乱を起した平将門、同族で乱を制圧した平貞盛らが出て、平氏一族は関東におおいに広まった。平清盛一門は源氏との抗争で滅んだが、鎌倉幕府創立に活躍した北条氏、三浦氏、梶原氏、長尾氏などは板東平氏と称される。

平氏一族の家紋は、三浦氏が「三つ引」、梶原氏が「石畳・矢筈」、秩父氏が「桐」、上総氏・千葉氏が「星(曜)」、土肥氏が「巴」、鎌倉幕府執権北条氏は「三つ鱗」である。

源氏は、四姓のうちもっとも新しい。平安時代前期、嵯峨天皇が皇子に源姓を与えて臣下に降したことに始まる。源頼朝、足利尊氏をはじめ、武田氏、佐竹氏、土岐氏、村上氏、小笠原氏など数多の武家が出た。宇多天皇を祖とする宇多源氏からは佐々木氏が出て、六角・京極・朽木・尼子・黒田氏らの武家が分かれた。

清和源氏の家紋は、足利氏が「引両」、武田氏が「菱」、佐竹氏が「扇に月の丸」、土岐氏が「桔梗」、村上氏が「上文字」。久我氏は「笹竜胆」を家紋とし、一族も笹竜胆紋を用いており、笹竜胆紋は村上源氏の代表紋である。

【五感】

動物やヒトが外界を感知するための多種類の感覚機能のうち、古来の分類による5種類、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚をさす。人間の感覚全体を指すために「五感」という表現が用いられることがある。

$\sqrt{5}$ は平方して5になる正の実数である。 $\sqrt{5}$ に1を足して2で割ったものが黄金比であり、正五角形の辺と対角線との比である。

五感を磨き、知情意から第六感を働かせることが生きる叡智である。

【江戸っ子、六つの粹】

①お心肥やし…心豊かでなければならぬ。江戸っ子の心意気である。読み書き算盤は無論のこと、人格を磨く事が何よりも大切なのだという意味合いが強く込められている。

②打てば響く…すばやく対応することを身上とした。当意即妙の掛け合い、初対面で相手を見抜く眼力など、切れ味が真骨頂とされた。

③時泥棒…江戸城の時計は一分の狂いもないほど正確であった。このためか、幕府に仕えている武士ばかりではなく、商人たちも時間には厳しかった。

④返事は、はい…はいはい、は駄目。物事を頼まれた時の返事は「はい」の一言でよい。一人前の大人に返事を繰り返すことは、目上の人に向かって念をおす行為と受けとられ、無礼とされていた。

⑤往来しぐさ…往来での作法である。狭い往来をすれ違う時など、ちょっと会釈をし、「肩引き」をして、お互いがぶつからないようにする。雨のしずくが相手

にかからないように「傘かしげ」をする。ちょっとした作法のことをいった。

⑥指切りげんまん、死んだらごめん…約束は必ず守る。口約束でも絶対に守った。「死んだらごめん」は、命にかけて約束を守るといふことである。

【北斗七星】

平将門は関東地方を支配していた。自らを『新皇』(新しい天皇)と称し都と対立した。

朝廷は、討伐隊を関東に派遣し、平将門を討ち取る。将門の首は京へ運ばれ、七条河原で晒し首にされた。首は何日経っても腐らなかつた。曝されていた首が夜空に舞い上がり、関東まで飛んだ。今の大手町にあるのが首塚である。

首 ①鳥越神社…将門の首がこの地を飛び越えた。

首 ②兜神社…俵藤太が将門の兜を埋めた。

首 ③首塚…将門の首塚。

首 ④神田明神…将門の首が祀られている。

首 ⑤筑土八幡神社…神社の隣の津久戸明神が将門の首を祀る。

封 ⑥水稲荷神社…将門調伏のための神社

体 ⑦鎧神社…将門の鎧(胴衣)を祀っている

⑧鬼王神社…幼い将門を祀る

将門の首(①～⑥)と体(⑦)を将門調伏神社(⑥)が切断している。平将門の強大な魔力を封じたまま霊的な力の強さを利用するために家康の意を受けた僧正天海が将門の7つの結界を作ったといわれている。

心と心のつながりで価値・創造・提案企業を目指します

機械・工具・伝動・管材

 **小川産業株式会社**

<http://www.osc-web.co.jp/>

【OSショップ】YAHOO店・楽天市場店

■本社 北茨城市磯原町本町3-1-8 ■つくば出張所 つくば市北条4679-1
0293-42-1200 029-850-7500



【安心】の東栄グループ 機械・資材・工具・溶接機械

東栄機工株式会社

<http://www.toueikikou.co.jp/>

本社 〒314-0116 茨城県神栖市奥野谷6129-18

TEL(0299)96-6023(代) FAX(0299)96-5630

ひたちなか営業所 〒312-0004 茨城県ひたちなか市長砂字塙123-2

TEL(029)219-5577(代) FAX(029)219-5588

東栄グループ

工業用ファスナー・ボルト

産業機械レンタル・修理

プロスパー洗洋株式会社 リペア・カサハラ株式会社

<http://www.neji-pros.jp/>

〒314-0116 茨城県神栖市奥野谷6129-19 〒314-0116 茨城県神栖市奥野谷6129-16

TEL(0299)94-3366 FAX(0299)94-3666 TEL(0299)97-1050 FAX(0299)97-2776



心を込めて、信頼できるカーライフ

茨城トヨタ

Esquire



エスクワイア

茨城トヨタ自動車株式会社

水戸市千波町1887 〒310-0851

TEL 0120-090110

<http://www.nakama-online.jp/>

Drive Your Dreams. 人、社会、地球の新しい未来へ。



心に寄り添う

お・も・て・な・し

それは

カスミのDNA



あしたは
もっともっと
いいね!

きょうは
もっと
いいね!

きのうも
いいね!

私たちの「いいね!」を
未来へつなごう

株式会社 カスミ

〒305-8510 茨城県つくば市西大橋599-1 TEL.029-850-1850

<http://www.kasumi.co.jp/>

KASUMI



カスミ公式フェイスブックページ

<http://www.facebook.com/kasumi.fanpage>



HITACHI
Inspire the Next



次の時代に、新しい風を吹き込んでいきます。

時代はいま、新しい息吹を求めて、大きく動きはじめています。

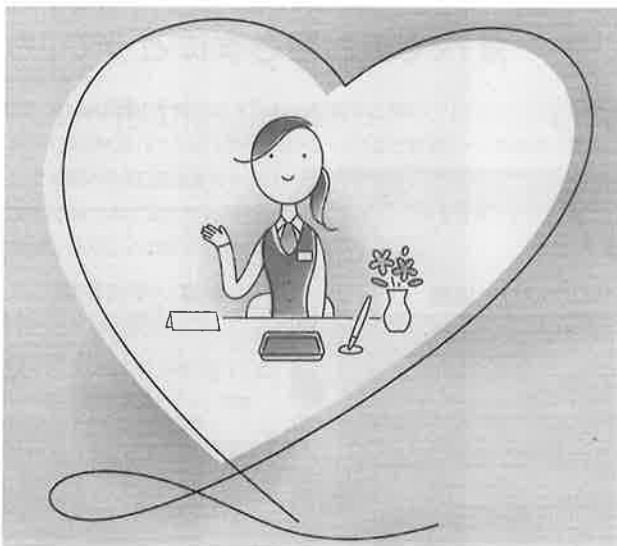
今日を生きる人々がいつも元気でいられるように、明日を生きる人々がいつもいきいきとしていられるように。

日立グループは、人に、社会に、次の時代に新しい風を吹き込み、豊かな暮らしとよりよい社会の実現をめざします。

日立の樹オンライン www.hitachinoki.net

株式会社 日立製作所 日立金属株式会社 日立化成株式会社 日立建機株式会社 日立工機株式会社
株式会社日立ハイテクノロジーズ 日立アプライアンス株式会社 日立オートモティブシステムズ株式会社

人に優しい銀行をめざして



常陽銀行はどなたでも
ご利用しやすい銀行を
めざしています。

ベストパートナーバンク



就職MAP 茨城版

Job Research Map

For
新卒者
採用

For
キャリア
採用

For
パート
アルバイト
採用

採用支援サイト

【就職MAP】リニューアルオープン

<http://www.shumap.jp/>

- ①求人情報をキレイ、自由、簡単に掲載します。
- ②煩雑な操作は必要ありません。
- ③無料です。（経営者協会会員に限ります）

求人情報の掲載は、
茨城県経営者協会「就職MAP」担当（後藤）まで
TEL 029-221-5301
FAX 029-224-1109
E-mail info@ikk.or.jp